

實行ノ結果更ニ改定ノ必要ヲ認メ明治四十年四月變性方法ヲ改正シタルコト左ノ如シ

一 鹽酸、曹達、硫酸曹達製造用鹽ニ對スル變性材料中石油〇、五ヲ一ニ改ム

一 石鹼製造用鹽ニ對スル變性材料中石油〇、五ヲ一ニ改ム

一 肥料、選種用鹽ニ對スル變性材料中石灰一〇ニ灰四ヲ混シタルモノヲ石灰五ニ四ヲ混シタル

モノニ改メ當藥粉〇、二五ニ油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ魚油一、二油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ、

コールタール〇、〇一ヲ加フ

一家畜用鹽ニ對スル變性材料ヲ辨柄〇、一ニ當藥粉〇、二五ヲ混シタルモノト定ム

尋テ又大正元年十一月左ノ改正ヲ爲セリ

一 肥料選種用鹽ニ對スル變性材料中沃度副産鹽三〇ニ灰四ヲ混シタルモノヲ除ク

第四節 含鹽礦物檢定

明治三十九年三月法律第十五號ヲ以テ智利硝石「カイニツト」、シルヴァイニツト「ポリハリツト」、キーゼリツト「カルナリツト」、ハルトザルツ「其ノ他ノ礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノ」ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸入者ヲシテ税關ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ニ變性ヲ施スニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ禁止セリ蓋シ是等ノ礦物ハ之レヨリ容易ニ鹽ヲ分離シ又ハ鹽ノ代用ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ是等ニ對シテ取締ヲ加ヘス自由ニ輸入スルコトヲ許ストキハ鹽專賣ノ目的ヲ達スルコトニ差支アリト認メラレタルニ依レリ而シテ是等ノ礦物ハ多ク肥料若ハ工業ニ使用セララルモノナルヲ以テ之ニ對シ適當ナル變性ヲ施スニ於テハ使用ニ差支ナキノミナス取締上不都合ナキヲ以テ之ヲ輸入スルトキハ凡テ變性ヲ施スコトト定メラレタリ其ノ變性方法及檢定手續左ノ如シ

大藏省令第十三號 (明治三十九年三月三十日)

含鹽礦物輸入移入規則

第一條 鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ稅關カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ輸入者ハ稅關ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六〇「カイニツト」シルヴイニツト「ポリハリツト」キーゼリツト「カルナリツト」ハルトザルツ其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニツト」シルヴイニツト「ポリハリツト」キーゼリツト「カルナリツト」ハルトザルツ若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和シテ之ヲ爲スモノトス

第二條 鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ鹽務局ヘ其ノ品名用途數量仕入地及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條 前條ノ移入申告アリタル場合ニ於テ鹽務局カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ハ第一條ニ準シ鹽務局ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

附 則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省訓令第八號 (明治三十九年三月三十日)

含鹽礦物檢定手續抄錄

第一條 鹽專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ノ含有鹽化曹達量ハ左ノ試驗方法ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

智利硝石ノ試驗方法

- 一 五十瓦ノ可檢礦物ヲ蒸餾水ニ溶解シ五百立方センチメートルトナシ之ヲ濾過スヘシ
- 二 第一號ノ溶液二十立方センチメートルヲ取り蒸餾水ニ加ヘテ二百立方センチメートルトナシ其ノ二十五立方センチメートルヲ分取シ格魯謨酸加里液ヲ標示藥トナシ之ニ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ加ヘ其ノ注加シタル同液ノ立方センチメートルニ一、四二ヲ乘シ總鹽素量ヲ算出スヘシ

- 三 第二號ノ總鹽素量ニ一、六五ヲ乘シ鹽化曹達ノ量ヲ算出スヘシ

「カイニツト」、「シルヴィニツト」、「ポリハリツト」、「キーゼリツト」、「カルナリツト」、「ハルトザルツ」、其ノ他ノ礦物ノ試驗方法

- 一 五十瓦ノ可檢礦物ヲ蒸餾水ニ溶解シ五百立方センチメートルトナシ之ヲ濾過スヘシ但シ場合ニ依リ少シク燉灼シテ溶解シ又ハ煮沸シテ之ヲ溶解スヘシ

- 二 第一號ノ溶液二十立方センチメートルヲ取り蒸餾水ニ加ヘテ二百立方センチメートルトナシ其ノ二十五立方センチメートルヲ分取シ格魯謨酸加里液ヲ標示藥トナシ之ニ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ加ヘ其ノ注加シタル同液ノ立方センチメートルニ一、四二ヲ乘シ總鹽素ヲ算出スヘシ

- 三 可檢礦物ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル溶液ヲ作り其ノ百立方センチメートルニ炭酸重土五瓦ヲ加ヘ約十五分間煮沸シ後蒸餾水ヲ加ヘテ百瓦トナシ之ヲ濾過シタル後其ノ濾液五十瓦ヲ秤取シ二分ノ一定規炭酸亞爾加里液十立方センチメートルヲ加ヘ約十五分間

煮沸シ蒸餾水ヲ加ヘ百瓦トナシテ之ヲ濾過シ其ノ濾液八十瓦ヲ秤取シ之ニ「メチール」ヲ
 レンジ液ヲ加ヘテ標示藥トナシ二分ノ一定規鹽酸液ヲ以テ過剰ノ炭酸亞爾加里ヲ逆測
 シ亞爾加里金屬以外ノ金屬ト化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ

四 可檢礦物ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル溶液ヲ作り之ニ一定量ノ「コバルト」液「硝酸」
 「コバルト」液ニ亞硝酸曹達五十分ヲ蒸餾水百分ニ溶解シタル
 液ヲ加ヘ更ニ冰醋酸十分ヲ加ヘテ攪拌シ一晝夜間放置シテ得タル上澄液ヲ加ヘ一定時
 間内ニ於テ黃色沈澱ノ分離スル状態ニ依リ加里ヲ檢定シ之ニ化合シタル鹽素量ヲ算出
 スヘシ

五 第二號ノ總鹽素量ヨリ第三號及第四號ノ鹽素量ヲ減シ其ノ殘數ニ一、六五ヲ乘シ鹽化曹
 達ノ量ヲ算出スヘシ

第二條 含鹽礦物ノ變性ヲ爲サシムル場合ニ於テ其ノ混和スヘキ礦物ノ含有鹽化曹達量ハ前
 條ノ試驗方法ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第五節 技術官吏養成

明治三十八年一月法律第十一號ヲ以テ同年六月ヨリ鹽專賣法實施ノ旨公布セララルヤ當時鹽ノ
 鑑定ニ從事スヘキ技術員ヲ養成スヘキコトハ最急ヲ要スル問題ノ一トナリタリ依テ主稅局ニ於
 テハ之カ實施ニ先チ農商務省若ハ大藏省内ニ在勤シ技術ノ事務ニ從事セル吏員ノ内ヨリ化學ノ
 素養アルモノ又ハ曾テ製鹽ノ技術ニ經驗アルモノ約三十餘人ヲ選出シ約二箇月間ニ涉リ講習會
 ヲ開キ鹽專賣法、鹽ノ製造法及變性法、鹽ノ分析法等鹽ノ鑑定技術ニ必要ナル科目ニ就キ講習ヲ遂
 ケシメタリ而シテ是等ノ講習員ハ講習終了後孰レモ之ヲ各地ノ鹽務局ニ配置シ更ニ鹽ノ主產地
 タル十州地方ニ於テハ廣島、神戶、丸龜ノ各稅務監督局ニ將來其ノ地方鹽務局ニ在勤スヘキ豫定ノ